

新規採用・削除医薬品等通知

新規採用医薬品通知

(薬品名)	パルモディア錠 0.1mg	市販直後調査 2018年6月～2018年11月
(英名)	PARMODIA	
(規格・含有量)	1錠中 ペマフィブラートとして 0.10mg	
(一般名)	ペマフィブラート	
(メーカー名)	興和株式会社	
【薬価収載日】	2018年5月	
【薬価】	33.90円	
【薬効コード】	872183	
【薬効分類名】	高脂血症治療剤	
効能・効果	高脂血症(家族性を含む)	
用法・用量	通常、成人にはペマフィブラートとして1回0.1mgを1日2回朝夕に経口投与する。なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、最大用量は1回0.2mgを1日2回までとする。	
禁忌	1.本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2.重篤な肝障害、Child-Pugh 分類 B 又は C の肝硬変のある患者あるいは胆道閉塞のある患者〔肝障害を悪化させるおそれがある。また、本剤の血漿中濃度が上昇するおそれがある。〕 3.中等度以上の腎機能障害のある患者(目安として血清クレアチニン値が 2.5mg/dL 以上)〔横紋筋融解症があらわれることがある。〕 4.胆石のある患者〔胆石形成が報告されている。〕 5.妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 6.シクロスポリン、リファンピシンを投与中の患者	
相互作用	本剤他剤作用増強 HMG-CoA 還元酵素阻害薬(プラバスタチンナトリウム、シンバスタチン、フルバスタチンナトリウム等) 本剤作用増強 クラリスロマイシン、HIV プロテアーゼ阻害剤、リトナビル等、フルコナゾール、クロピドグレル硫酸塩 本剤作用減弱 陰イオン交換樹脂(コレステラミン、コレステミド)、強い CYP3A 誘導剤(カルバマゼピン、フェノバルビタール、フェニトイン、セイヨウオトギリソウ(セント・ジョーンズ・ワート)含有食品等)	
副作用	重大な副作用 横紋筋融解症 その他 5%以上の記載なし	

後発医薬品採用通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
<p>●7月2日より</p> <p>フルスルチアミン錠 25mg「トーワ」</p> <p>シグマピタン配合カプセル B25</p> <p>ジェノゲスト OD 錠 1mg「モチダ」</p> <p>●7月中旬(予定)</p> <p>トラネキサム酸カプセル 250mg「トーワ」</p>	<p>アリナミン F 錠 25mg</p> <p>ピタメジン配合 Cap B25</p> <p>ディナゲスト錠 1mg</p> <p>トランサミンカプセル 250mg</p>

適応追加通知

<p>オブジーボ点滴静注 20mg/100mg</p>	<p>【効能・効果】 (略)</p> <p>【用法・用量】</p> <p>1. 根治切除不能な悪性黒色腫</p> <p>化学療法未治療の根治切除不能な悪性黒色腫患者の場合:通常、成人にはニボルマブ(遺伝子組換え)として、1回3mg/kg(体重)を2週間間隔で点滴静注する。イピリムマブ(遺伝子組換え)との併用において、通常、成人にはニボルマブ(遺伝子組換え)として、1回1mg/kg(体重)を3週間間隔で4回点滴静注する。その後、ニボルマブ(遺伝子組換え)として、1回3mg/kg(体重)を2週間間隔で点滴静注する。</p>
<p>ヤーボイ点滴静注液 50mg</p>	<p>【効能・効果】 (略)</p> <p>【用法・用量】</p> <p>化学療法未治療の場合:通常、成人にはイピリムマブ(遺伝子組換え)として1日1回3mg/kg(体重)を3週間間隔で4回点滴静注する。なお、他の抗悪性腫瘍剤と併用する場合は、ニボルマブ(遺伝子組換え)と併用すること。</p> <p>化学療法既治療の場合:通常、成人にはイピリムマブ(遺伝子組換え)として1日1回3mg/kg(体重)を3週間間隔で4回点滴静注する。</p>

